

# 憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認は許さない！

## 9. 7街頭演説会を開催

連合北海道は、9月7日、札幌市大通西3丁目において、憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認に反対する街頭演説会を、約700名の参加のもと開催した。

主催者挨拶にたった連合北海道工藤和男会長は「憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認の閣議決定、これに基づく



安保関連法案の進め方、内容も違憲であり、まさに権力の暴走。新国立競技場も東京五輪のエンブレムも白紙撤回した。安保関連法案も白紙撤回すべき。」と強く訴えた。また、石狩地協太田聡会長は「十分な論議も尽くさず、国民の理解も得られないまま強行採決し法案の成立を急ぐ現内閣の対応は断じて許すことはできない。私たちは現政権の退場と法案の成立阻止に向け全力で闘う。」と決意を述べた。



続いて、連合北海道出村良平事務局長より、これまでの取り組み経過として、地域での集会の開催や意見書採択など、法案阻止に向けた行動について報告がされた。

引き続き連帯挨拶にたった民主党北海道市橋修治幹事長は「嘘、偽りで国民をだまし、いかにも集団的自衛権が必要であるかのように言っているが、自衛隊員の安全確保さえもできない法案は決して通してはならない。残された期間はわずかだが廃案にするために共にがんばろう。」と参加者に呼びかけた。また、札幌弁護士会田中健太郎弁護士は「本当に政策として必要なら憲法改正をした上で法律を提案するのが筋。為政者が憲法を無視した政治をしたら国民が悲惨な目に遭う。だからこそ為政者は憲法に従った政治をしなければならない。憲法を無視した政治は独裁だ。」と政府を痛烈に批判した。最後に山上潔会長代行による行使容認を決して許さないとの決意を込めた団結ガンバローで集会を締めくくった。



終了後、参加者は市内をデモ行進し、違憲の集団的自衛権反対や、安倍政権の独裁を許さないなど、市民にアピールし理解を求めた。

連合北海道は今後も、平和や民主主義を揺るがす安全保障関連2法案の廃案に向けて、組織の総力を上げ最後まで反対運動を展開する。